

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370204111		
法人名	ヨシケン不動産株式会社		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	岡山県倉敷市真備町川辺2136-1		
自己評価作成日	平成28年10月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障がい者生活支援センター		
所在地	岡山市北区津高628-1		
訪問調査日	平成28年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周りには田園や山があり、季節の移り変わりが感じ取れ、近隣にはスーパーマーケット・学校・病院・図書館など生活資源も豊富にあり、恵まれた環境の中に立地している事業所です。のどかさや便利さが程よく調和しており、利用者様の生活に活用しています。ご利用者様、ご家族様とのコミュニケーションを大切にし、共に支え合う関係作りに努め、一日一日を大切に支援するよう心掛けています。食材はできるだけ地産地消の物を使用し、また、ホームの畑で育てた野菜も食卓に乗っています。口からの食事が難しくなったり、食事がうまく進まない方など、原因を見極め、食事形態を変えたり、食事環境を工夫したりなど個々に合わせた食事ケアを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

園長を始め職員全員が利用者の目線に立ち又、家族の思いを受け入れながら本人家族が望む姿に近づける様取り組んでいる様子が窺えます。事業所と家族のコミュニケーションを大切にしたりした取り組みが食へのこだわりにも表れており地元を大切にしたりした支援が窺えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で考えた理念である。理念を実践に繋げるためにはどうしたら良いか話し合い、2か月目標を立て、日々の業務に反映できるようにしている。	理念から小さな目標を2か月ごとに立て、必要な場合は継続しています。またケアが職員側の都合になっていないか振り返る時間を取っています。利用者と家族が願う生き方に近づけるため、柔軟に対応しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営母体代表者は福祉の充実を願い、高齢者や学校とのイベントを主催し、地域との交流に長年取り組んでいる。事業所を訪れるボランティアの方々も開所以来のメンバーに加え少しずつ新メンバーも増えてきている。	地域との関わりを持つための事業所主催のイベントも定着し、知り合いも増えボランティアも定期的に継続して来所してくれま。その中には利用者の昔ながらの知り合いの顔も見られ、昔話に花が咲く場面も見られます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や幅広いボランティアの方を受け入れたり、中学生職場体験、現役教師の社会貢献体験研修などを通して、認知症の人々の理解を求めている。また、地域の高齢者のことで困りごとの相談にも応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族・民生委員・地域包括支援センター・介護保険課・老人クラブ・ボランティア・近隣グループホームなどの方々にご参加いただき定期的に開催している。ホームの実情、利用者様の状況報告、行事報告等を行い参加者の方々よりご意見、助言をいただきサービス向上に生かしている。毎回テーマを変え、「小さな勉強会」も行っている。時には外部より講師を招くこともある。	町内にある2事業所と交流が始まり、お互い運営推進会議に出席しています。情報交換を行い取り入れています。また地域の高齢者のことで困りごとの相談にも応じており、地域の相談拠点として機能しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市・地域包括支援センター共に運営推進会議に出席していただき、事業所の取り組みや実情を伝えている。また、行政に対する要望や意見、相談等にも応じていただいている。	利用者や家族から危険を伴う作業の手伝いの申し出があり、その場で判断せず行政担当者に相談し協力して説明し、代替え案を提示しました。納得して貰い喜んでもらえました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、日中は施錠せず自由に庭へ出られるようになっている。スタッフ全員が一人一人の対応について、どの様なことが身体拘束になるのかを勉強会をもとに正しく理解するように努めている。言葉の拘束に関しても、日常的に職員全員が気をつけるよう意識していると共に、お互いに注意し合える環境作りをしている。	利用者との関わりにおいて、日常的な会話にも慣れ親しんだ言葉と馴れ馴れしい言葉のけじめをつけている。また日常的に介護者が行う行動中にも拘束に至る事があることを理解しています。	一人ひとりの利用者が抱えている根本的な不安や混乱を取り除くケアをこれからも深めていくことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1度虐待についての勉強会をしている。虐待が見過ごされることのないよう職員同士もコミュニケーションを取り合い小さな変化にも気を付けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学び、それを基に内部研修を行い、制度の理解に努めている。成年後見制度について、ご家族からの相談にも乗っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、不明な点や不安なことがないように詳細に説明し、納得を得て締結するようにしている。また、改正変更事項があったときには、一家族ごと直接説明を行い、同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からご利用者様、ご家族様とのコミュニケーションを密にし、意見や要望が言いやすい環境作りに努めている。いただいたご意見は大切に、運営に反映させている。玄関には意見箱を設置している。	園長・担当者を交えた家族会で出席者から出た意見・要望又、日頃から聞き取ったそれらを参考に職員全員で反映に取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議、職員会議、個々との面談などを通し意見や提案などを聞く機会を設けている。また、日々の業務の中でも改善点、提案が出来るようにし、積極的に取り入れるようにしている。	職員が長く勤められる様に労働時間休み希望を受け入れており、外部研修の受講料は事業所が負担しています。職員は管理者と気軽に意見を言い合える関係が出来ており、採用の際も職員にも窺うようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間、休み希望などをできるだけ聞き入れ、個々の実情を考慮し、「無理なく働き続けることが出来る」職場であるよう職場環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を掲示し、自分の希望研修に参加できるよう配慮している。参加費用も事業所が負担。内部研修では、自分の担当する研修内容について資料作りをしたり、講師的な立場になることで更なる知識の習得に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度より、運営推進会議に近隣のグループホーム2か所の参加が頂けるようになり、今後、交流を深め、サービス向上に活かしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人にここで生活するにあたってという内容で要望を問うことは困難であるが、今現在困っていることや、不安に思われていることを聞いている。また、家族等からいただいた情報を会話の中に取り入れるなどし、まずは話しやすい関係を作るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在家族が困っていること、本人についての情報や話したいことを聞き取り、本人が席を外すことが可能であれば、1対1で、遠慮なく話をさせていただく時間を作るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、困っていること、心配していることを聞き、どのようにしたらよいかの選択肢を提示しながら、一緒に考えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全員ではないが、お皿拭きをしたり、洗濯ものをたたんだりできることを一緒にしながら、暮らしの中で感じる嬉しいことや楽しいことを共感している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や手紙、面会時などを利用して、こまめに生活の現状を報告している。本人にとってより良い生活が送れるように家族にも協力を求め、相談しながら共に本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出可能な方には自宅近くまでドライブしたり、買い物、墓参りなど、日ごろの会話の中で出てくる思い出の場所へお連れしている。馴染みの方の面会があった時にはご家族へ報告をし、次の来園に繋がるように配慮している。	馴染みの場所へ個々に出掛けています。介護度が高く、外出が難しい方の知り合いがボランティアの中において、昔話をしたりして馴染みの関係の継続支援に繋がっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のトラブル、孤立がないよう、席の配置やスタッフの見守りと声掛けにより、良い関係性を保てるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移る場合には、当所での生活ぶりなどの様子を詳しく情報提供し、その後も連携が図れるようにしている。園外でご家族にお会いした際に話をすることはよくあり、その折に、ご本人やご家族の近況を聞いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望の言える方には意向に沿った対応ができるが、困難な方の場合は、表情や状態を見ながら、把握したり、本人の立場に立って考え、職員間でしっかり検討し支援している。	家族や利用者の知り合いの面会時に昔話を聞いたり、本人の”人となり”の理解に繋がっています。家族から利用者の輝いていた頃の写真を持って来てもらい、そこから本人の思いを聴いています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から今までの生活をどのように過ごされていたのか聞き、情報を集めている。また、ホームでの日常生活の様子を見ながら情報の共有に努めている。会話の中からも馴染んだ暮らし方の情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日によって、あるいは時間によって心身の状態が変化する場合もあるので、毎日のコミュニケーションで心身状態を把握し、状態の変化があれば、申し送り等で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれに持っている要望や意見をまとめて介護計画を立てるようにしている。が、ご利用者様から希望を聞くことが困難な場合が増えてきた為、日常の様子観察にて考えていくよう対応している。	日々の変化についてその都度カンファレンスを行い、計画変更時には担当職員が中心となって話し合い、計画作成担当者がまとめ介護計画を作成します。家族には担当職員から細かい計画の説明を行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化は個人記録に記入し、職員全員が情報を共有できるように申し送りノートを活用している。モニタリングは毎日行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同じ支援に対しても方法が違う事があり、個人で様々な違いを理解して、食事の提供時間、排泄介助など個々のペースやニーズに柔軟に対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館に絵本や紙芝居を借りに行ったり、定期的、または不定期に幅広いボランティアの方々との訪問を受け、楽しい時間を共有していただいている。毎年近隣の学童保育の子供たちを招き、小さな夏祭りを開催している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの方が、訪問診療を利用している。体調不良時には、医師に報告相談し、アドバイスをもらったり、必要であれば往診に来てくれる。緊急で受診が必要な場合にはスタッフが必ず付き添って状況を説明している。	定期受診及び体調不良時は、往診して貰っています。緊急時は担当医と相談して救急車を依頼します。専門の科を受診の際、情報共有シートを持参し医療連携に努めており、家族が同行する際も職員が付き添います。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護がある。利用者の体調の様子、状態の変化、受診往診の内容を用紙に記入し、相談したりアドバイスをもらったりしている。必要時には個々で契約を行い、環境を変えず点滴などの処置を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に対してご本人に関する情報提供を行い、又、病院での状況を面会時を通じて把握している。退院後は医療従事者より引き継ぎ、より良いケアに繋げるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期をどう過ごしたいかの意向は入居時に問うようにしているが、実際に終末期となる時には、医師、家族、ケアマネと相談。医療面の対応は医師、訪問看護師が入るようになっている。	利用者並びに家族から「最後までここでいたい」という希望が出てきています。現在、その思いに寄り添える為に、職員の体制作りを行っています。少しずつですが、職員から最後まで看たいという声が出始めています。	方針の統一、共有が重度化や終末期支援の体制を整えていく上で、重要になってきます。引き続き本人並びに家族の思いに寄り添える関わりを目指して、体制作りを続けていく事を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し、手順について勉強会を行っている。対象者の必要事項を1冊のファイルにまとめ、連絡者にスムーズに伝わるようにしている。また、訪問看護師より、症状による適切な対応について勉強させてもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年消防署の協力を得て、夜間想定避難訓練を行っている。周りに民家がほとんどないので、グループ会社の協力体制を整えている。グループ会社社員との地震、水害想定避難訓練も行っている。	事業所のある場所はハザードマップによると2階まで浸水する地域に含まれているので、数件離れた法人グループのマンション(4階建)に避難するように消防署と確認しました。また備蓄を準備する予定です。	事業所の数件隣には民家はありませんが、実際に災害に見舞われたときは地域の協力なしには避難は難しいと思われます。また職員自身も被災することも考慮して、地域との連携を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴染みの関係が馴れ合いになる傾向があり、全職員で注意し合うように努めている。ご本人の人格、気分を損ねないような言葉遣いを心掛けている。	プライバシーには特に気を付けており、業務優先にならない様、本人の尊厳を最優先に考えています。毎日の会話も使い慣れ、聞きなれた言葉を用いながら、利用者を敬う言葉を選び、語尾や声のトーンに気を配っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に考えてもらえる時間を持つよう心掛けている。また、自己決定できない方にはいくつかの選択肢を用意し、希望に添えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは大体決まっているが、本人の体調、気分に応じて、対応しながら、一人一人のペースを大切に、安心して過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容、整髪は毎日行っている。衣服は組み合わせ、色、季節を考え選んでいる。最近では白髪を気にされる方の毛染めを行い、大変喜ばれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方には野菜の皮むき、食器の洗い物、食器拭きをスタッフと一緒にしている。行事食に、旬の物を取り入れ、食事を楽しんでいただいている。	地産地消で「食」の大切さにこだわっています。事業所の畑で、利用者と一緒に夏野菜作りを楽しみおいしくいただきました。利用者が今まで食べて来た食事が継続できるように心掛けています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェックを行い、摂取が少ない時には補助で栄養を補っている。水分についてはお茶ゼリーなどを取り入れ、水分摂取ができるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは自分では声掛け、見守りを行い、できない方は、口腔スポンジ、ガーゼを使用し、口腔内の清潔を保てるようにしている。義歯は、夜間に洗浄剤に浸している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時にトイレの声掛けと誘導を行い、できるだけ、トイレにて排泄できるように促している。それぞれに適したパットの検討を行っている。また、情報交換しながら、本人の排泄パターンを把握している。	排泄の自立が妨げられている原因は環境、運動機能、排泄機能、認知機能と複合的に絡み合っているためアセスメントを行い、その因子を整理・分類し一人ひとりに合った自立にむけた支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ラジオ体操をしたり、散歩したり、できるだけ身体を動かし、自然排便ができるよう働きかけている。水分摂取の促しや便通に良い食物を摂るようもしている。排便が困難な方には薬や座薬を使用し、排便コントロールをしている。排便状態によってはDr. に相談し、薬の調整をしたり、処方してもらったりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間帯はある程度決まっているが、その時の本人の気分、体調、要望に応じて変更したり、追加したりしている。入浴時間は一対一なので、ゆっくり会話できる貴重な時間として支援している。	入浴回数は自由ですが、週2回以上は入浴して貰うように促しています。また一方的に入浴を勧めるのではなく、入浴拒否の原因をアセスメントして理解に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室へ自由に出入りできる方は好きな時にゆっくりと休んでいただいている。自分で動くことができない方は状態を見ながら、臥床の時間を確保している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の服薬の状態が確認できるようファイルにまとめている。薬の変更があった時は必ず申し送りをし、目的、副作用などを確認している。薬剤師と連携をとり、注意する点に気を付けて、見守り、観察をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月の行事、レクリエーション、買い物、DVD鑑賞、ドライブ、個々の楽しみごとなどで気分転換をはかるようにしている。出来ないことが増えてはいるが、今出来ることを見つけ、職員と一緒に会話を交えながらして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一部の利用者の方になってしまうが、できるだけ、希望に添えるよう散歩、ドライブ、買い物に行っている。年に数回、普段行けないところへ行く計画を立て、気分転換をして頂いている。ご家族の方も、本人の希望に沿って、外出する機会を作ってくれている。	個々に家族同行で外出を行い、とても喜んでもらいました。外出が難しい利用者には本人の体調と気候に配慮しながら庭に出てみたり、近所に散歩に出掛けたりして、陽の温かさや季節の”におい”を感じてもらい気分転換を図っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則として、お金の所持はしていない。必要なものや欲しいものがあれば、ホームで立替をし、購入ができるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、いつでも電話ができるようにしている。ご家族から、電話があった時にはご本人が満足できるまで、お話し頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、壁面を変えて季節を出し、目で見えて楽しんでいただいている。共用空間を清潔に保ち、特にトイレは不快に感じることなく使用して頂けるよう心掛けている。利用者様が快適に過ごせるよう、空調や光などには気をつけ、移動しやすいように配慮している。	共用空間作りと来訪者への笑顔を大切にしています。温度、湿度、明かりは利用者の感覚に合わせており、場所で温度や明るさに違いを作り、本人の居心地のいい場所で過ごすようにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士を同じテーブルにしたり、ソファ、畳、ベンチなどでゆっくり過ごせるスペースを作っている。ベンチではのんびりと外を眺めている方、気の合う方同士楽しそうにしている姿をよく見かける。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅にて愛着のあるものを持ち込んで、使用している方がおられるが、転倒や転倒による怪我などのリスクを回避するため、使用できなくなってしまう事が多い。	特に持ち込むものに制限は無く、本人が必要な物を持ち込み、落ち着くことが出来る環境にしています。仏壇を持ち込んでいる方も多く、毎日お供えの取り換えも行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の動線上には手すりをつけ、安全面には配慮している。日付が分かるようカレンダーの作成をしたり、トイレの標識、自室の名札などがあることで、安心して生活できるようにしている。		